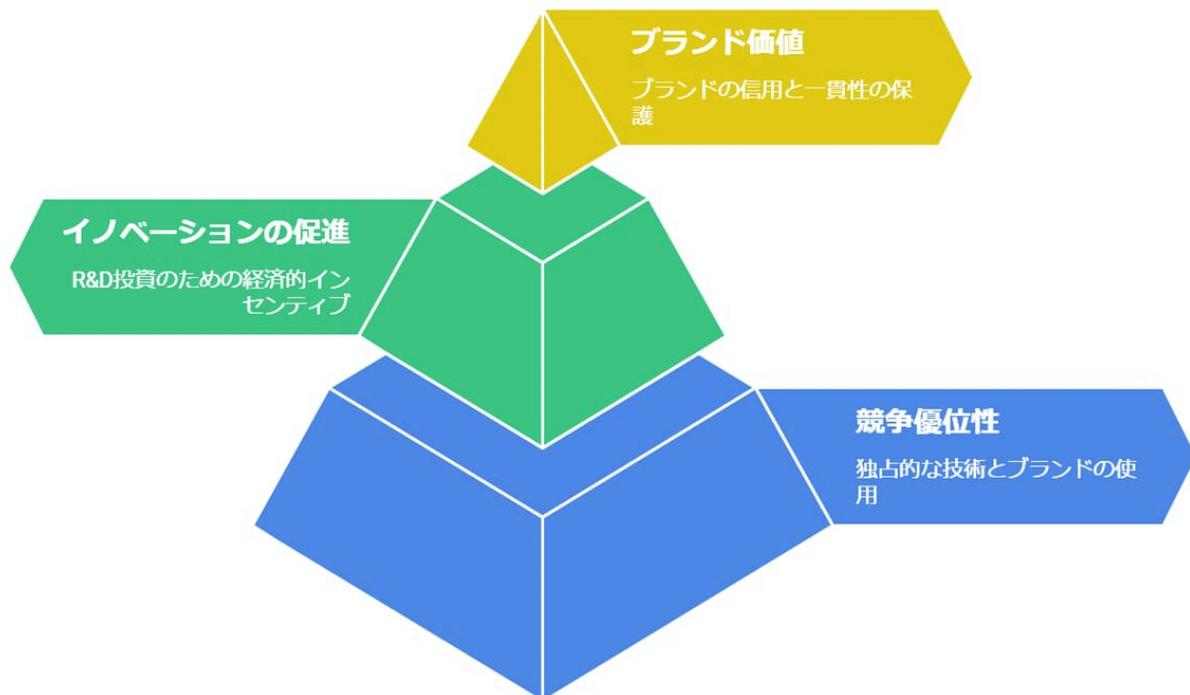


弁理士の日記念ブログ企画2025「生成AIと知財業界」分析レポート

2025年7月1日の弁理士の日を記念して開催された第16回目となる「弁理士の日記念ブログ企画2025」では、「生成AIと知財業界」をテーマに知財関係者が様々な視点から論考を発表しました。本レポートでは、参加したブログ記事を包括的に分析し、知財業界における生成AI活用の現状、課題、そして将来への展望を明らかにします。

知的財産戦略ピラミッド



A pyramid diagram illustrating the core pillars of intellectual property strategy: competitive advantage, innovation promotion, and brand value.

企画概要と参加状況

今回の企画には、弁理士、特許調査会社、知財サービス事業者、弁護士など多様な専門家が参加し、それぞれの実務経験に基づいた生成AI活用の実態と課題について議論を展開しました。分析対象となった主要な参加ブログは10件で、業務効率化から法的リスク管理まで幅広い観点をカバーしています。



An open-plan office showcasing patent attorneys working at their individual workstations.

参加ブログの概要分析

主要参加者と専門分野

分析した参加ブログの内訳は以下の通りです：

- 弁理士・特許事務所関係者：6名（弁理士アッカー、大樹七海、湯浅竜、中村祥二、廣田浩一、妖香）
- 知財サービス事業者：2名（宮崎超史、NEDS）
- 弁護士：1名（河部康弘）
- 個人（著者・編集者）：1名（稲穂健市）

活用度別分布

参加者の生成AI活用レベルは多岐にわたり、「補助ツール活用」から「事業革新レベル」まで10段階の活用度が確認されました。特に注目すべきは、宮崎超史氏（Toreru）と湯浅竜氏（Smart-IP）による「システム開発レベル」での活用事例です。



弁理士の日記念ブログ企画2025「生成AIと知財業界」参加ブログの論点マップ

業務分野別活用事例分析

特許調査・分析分野

主要な活用事例：

- IPランドスケープでのChatGPT活用（NEDS）
- 特許検索競技大会での生成AI評価実験
- 商標調査の数十倍効率化（Toreru）

効果と課題：

生成AI活用により調査時間の大幅短縮が実現されている一方で、AI単体での精度不足やハルシネーション問題が指摘されています。特許データベースとの適切な連携が成功の鍵となっています^{[1] [2]}。

特許明細書作成分野

革新的な取り組み：

- appia-engine開発による明細書ドラフティング支援（Smart-IP）
- 10分での特許明細書作成システム（Toreru）
- 発明ヒアリングからクレーム草案まで一貫サポート

実務への影響：

明細書初稿作成時間が数分の一に短縮されるなど、劇的な効率化が報告されています。しかし、最終

的な法的判断や品質管理においては人間の専門性が不可欠であることが強調されています^{[3] [4]}。

商標業務分野

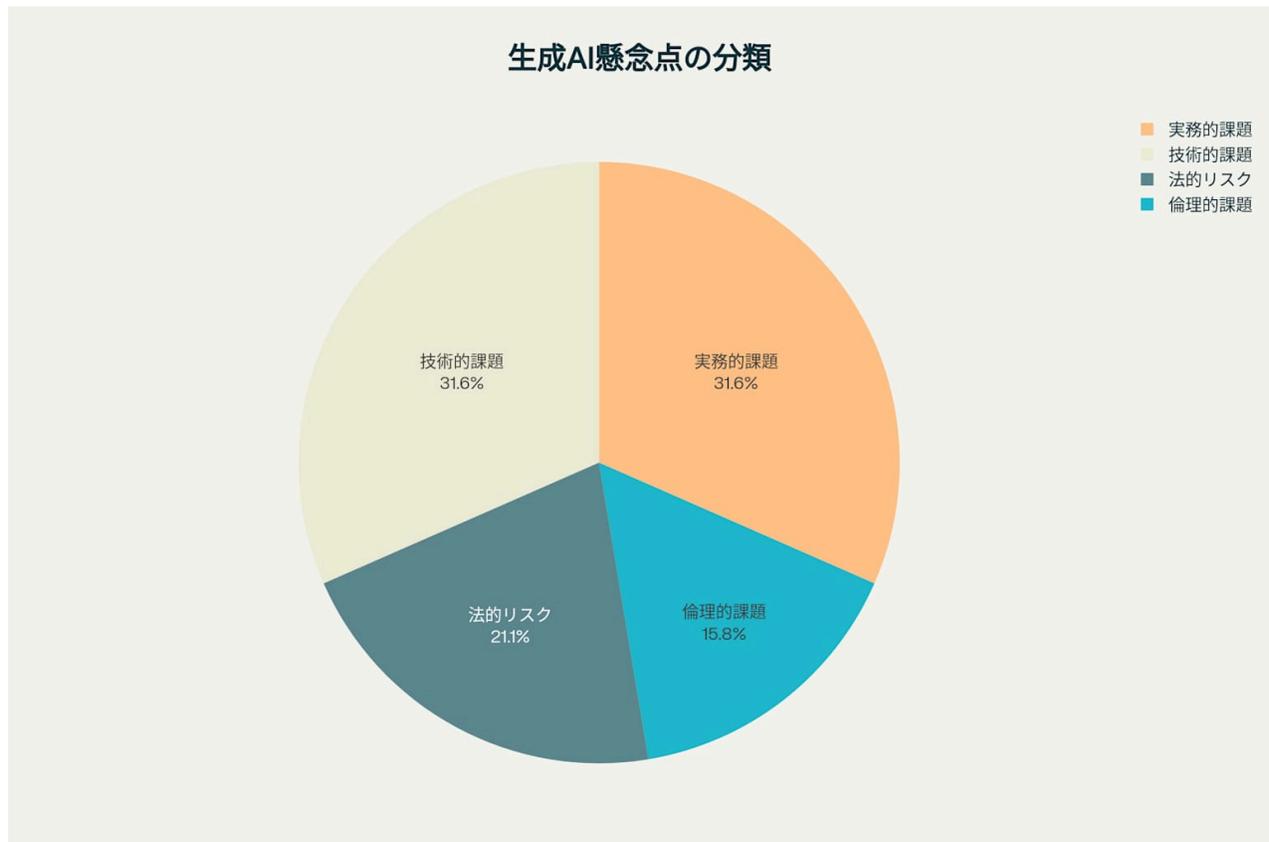
実用的な活用領域：

- ネーミング作成での大量候補生成
- 商標登録可能性調査の効率化
- TM-RoBo等のAIツール活用
- 指定商品役務の検討支援

中村祥二氏は、2019年の「AI vs 弁理士対決」から6年間の進化を振り返り、AIが「補助者」から「パートナー」的存在に変化したと分析しています^[5]。

懸念点・課題の分析

参加ブログで指摘された懸念点は、技術的課題、法的リスク、実務的課題、倫理的課題の4つのカテゴリに分類されます。



知財業界における生成AI活用の主要懸念点・課題の分布

技術的課題

ハルシネーション問題が最も頻繁に言及された課題で、稲穂健市氏は「生成AIが平気で嘘をつく」点を指摘し、法律・科学技術分野での信頼性の問題を強調しています^[1]。

法的リスク

弁護士河部康弘氏は、個人情報保護法の観点から重要な指摘を行っています：

- 特許公報の発明者氏名の個人情報としての取り扱い
- 海外AI事業者への個人データ提供時の第三者提供同意の必要性^[6]

実務的課題

多くの実務家が共通して指摘するのは、「人間の判断・戦略立案能力の重要性」です。AI活用が進む中でも、創造的な業務や高度な専門判断は人間固有の役割として残ることが予想されています。

倫理的課題

大樹七海氏は、AI企業の著作権に対するスタンスの違いを詳細に分析し、「顧客にクリエイターを多く抱える企業は著作権重視の方向で設計している」と指摘しています^[7]。

共通トピックとユニークな視点

共通トピック

1. 「60%から100%問題」：多くの実務家が、AIが60%程度の完成度の成果物を迅速に生成できるが、100%の完成品にするには人間の専門性が必要だと指摘
2. ハルシネーション対策の重要性：AI生成物の正確性チェックが不可欠
3. 人間とAIの協働：AIを完全な代替ではなく、パートナーとして活用する視点

ユニークな視点

大樹七海氏の10年史観：

2016年から「AI知財漫画」を描き続けてきた経験から、10年間のAI技術進化を知財業界の視点で俯瞰的に分析している点は他に類を見ないユニークな視点です^[7]。

宮崎超史氏のシステム開発視点：

ブラウザ版AIツールの限界を指摘し、「劇的に効率化するには独自システム開発が必要」との実践的知見を提供しています^[8]。

河部康弘氏の法的リスク警鐘：

知財業界では見過ごされがちな個人情報保護法の観点から、生成AI利用のリスクを具体的に指摘している点が特徴的です^[6]。

活用の方向性と成功要因

成功している活用パターン

1. **特定業務への特化**：汎用的な活用ではなく、明細書作成や商標調査など特定業務に特化したシステム開発
2. **人間の専門性との組み合わせ**：AI出力の評価・修正・戦略立案を人間が担当する役割分担
3. **段階的導入**：完全自動化ではなく、段階的な効率化を図るアプローチ

実用化レベルの評価

業界全体の関心傾向

積極的活用派と慎重派の共存

分析結果から、知財業界内では生成AI活用に対して積極的活用派と慎重派が共存していることが明らかになりました。しかし、両派ともに「人間の専門性の重要性」については一致した見解を示しています。

実務重視の姿勢

理論的な議論よりも、実際の業務での活用経験に基づいた具体的な知見が豊富に共有されている点が、知財業界の実務重視の特徴を表しています。

将来への建設的展望

「AIに仕事を奪われる」という悲観的な議論よりも、「AIとの協働により価値を創造する」という建設的な展望が多く示されています。

結論と今後の展望

弁理士の日記念ブログ企画2025の分析から、知財業界における生成AI活用は確実に実用段階に入っており、特に以下の点が明確になりました：

主要な知見

1. **効率化の実現**：特許調査、明細書作成、商標業務において具体的な効率化効果が実証されている
2. **人間の役割の変化**：定型作業からより戦略的・創造的業務へのシフトが進行中
3. **技術的・法的課題の認識**：ハルシネーション、個人情報保護、著作権等の課題が明確に識別されている
4. **段階的進化の現実性**：革命的变化ではなく、段階的な業務改善として浸透している

今後の展望

知財業界における生成AI活用は、「完全自動化」ではなく「高度な協働」の方向に向かうと予想されます。技術的な進歩と並行して、法制度の整備、倫理的ガイドラインの策定、人材育成の充実が重要な課題となるでしょう。

本分析により、知財業界の専門家たちが生成AIを単なるツールとしてではなく、業界の将来を左右する重要なパートナーとして真剣に向き合っていることが明らかになりました。今回のブログ企画は、知財業界における生成AI活用の現在地を示す貴重な記録として、今後の業界発展の指針となることが期待されます。

森

1. <https://benrishikoza.com/blog/benrishinohi2025/>
2. <https://note.com/keninaho/n/na5d795569755>
3. <http://www.senshu-u.ac.jp/~off1009/PDF/geppo2021/698・699/smr698・699.pdf>
4. <https://note.com/neds/n/n6577cafd6896>
5. <https://money-bu-jpx.com/news/article053405/>
6. <https://www.youtube.com/watch?v=K6FV8swin9s>
7. http://blog.livedoor.jp/maruchan_73/archives/10893471.html
8. [https://www.cent.titech.ac.jp/DL/DL_Publications/Tokyo Institute Technology Centennial Hall 30th Anniversary.pdf](https://www.cent.titech.ac.jp/DL/DL_Publications/Tokyo%20Institute%20Technology%20Centennial%20Hall%2030th%20Anniversary.pdf)